

# 生麦中だより

令和4年(2022) 9月【5号】

「互いを認め合い幸せをつくる」

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/namamug>

## 夏休みをふり返って

副校長 森 康昭

7月からの長い夏休みも終わり、2学期がスタートしました。  
この間、保護者・地域の皆様には、本校生徒を温かく見守っていただき、ありがとうございました。

今年の夏休みは感染症の第七波に見舞われましたが、社会全体の大きな行動制限はなく、ほとんどの部活動の大会やコンクールが行われました。そんな中でも、生麦中の水泳部と女子テニス部が個人種目や団体戦で見事に関東大会出場を果たしました。学校数の多い横浜市で勝ち抜き、神奈川県大会の上位に残ることは並大抵の事ではありません。本人たちの日々の努力や顧問の先生方の指導はさることながら、ご家庭や地域の応援もあっての成果だと思えます。本当におめでとうございます。

また、大会等で上位入賞や県大会出場とはなりませんでしたが、どの部活動も日々仲間とともに汗を流しながら、充実した活動をしていました。6月に本校で行われた男子バスケットボール部の公式戦を観戦することができました。点差がありながらも、最後の1秒までみんなでボールを追いかける姿に勇気と元気をもらいました。7月に県民ホールで吹奏楽部の演奏を聴きました。すばらしい演奏が大きなホールに響き渡り、曲の情景が目に見えようでした。同じようにすべての部活動にも、様々なドラマがあったのだと思います。毎日暑い中、本当にかんばりました。

さて、今年の甲子園の話になりますが、優勝した仙台育英の須江航監督のインタビューがニュースで取り上げられていました。度々報道されていたのは、「青春ってすごく密なので」という言葉でしたが、私は一番最後の「本当にすべての高校生の努力のたまもの、ただただ最後、僕たちがここに立ったというだけなので、ぜひ、全国の高校生に拍手してもらえたらなと思います。」という言葉が印象に残りました。最後に勝ち残ったチームでありながら、全国すべてのチームの健闘を称えることができるのはすばらしいことです。

部活動において勝利至上主義が問題視されることがありますが、監督のほんの数分の言葉から、勝利するだけでなく、「相手を敬うこと」や「人に感謝すること」など多くのことを大切にしてきたことが感じられました。

この夏の出来事として部活動のことを主にふり返ってみました。長い休みの間に部活動以外にも、クラブチームの活動や習い事、様々な趣味に打ち込んだ人もいたと思います。3年生は高校説明会に参加し、勉強に専念していた人もいます。それらを通して多くの知識や技術が身に付いたと思いますが、普段の学校生活とは違った「人との関わり」や「地域とのつながり」、「新たな挑戦」の中から学んだことも、ぜひ大事にしてください。また、感染症対策という「いつもよりも1つ多い課題」とも長く向き合ってきたことで「どうすればやれるのか」というように、みなさんには「考えて工夫する力」も身に付いています。

この夏に経験したすべてのことを生かしながら、2学期もみなさんが活躍することを期待しています

## 部活動 活動報告

### 陸上競技

- 県通信大会出場  
大澤志織(女子共通砲丸投)、石井汐莉(女子1年800m)、宇野加苗(女子1年走幅跳)
- 鶴見区大会  
男子総合第2位、女子総合第2位、男女総合第2位

### サッカー

- 市総体 1回戦 vs 上飯田 3-2(勝ち)  
2回戦 vs 中川西 1-3(負け)

### 野球

- 市総体 1回戦 vs 山手学院 3-5(負け)

### ソフトテニス男子

- 市総体団体戦2回戦 vs 南が丘1-2

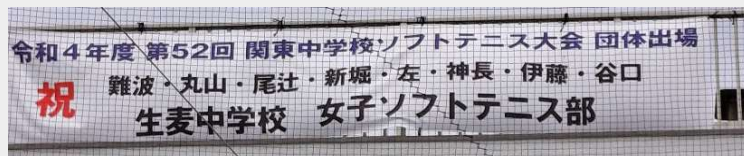
### ソフトテニス女子

- 市総体団体戦 優勝  
(難波・丸山、尾辻・新堀、左・神長、伊藤・谷口)

- 市総体個人戦 第3位  
(難波・丸山ペア、左・神長ペア)

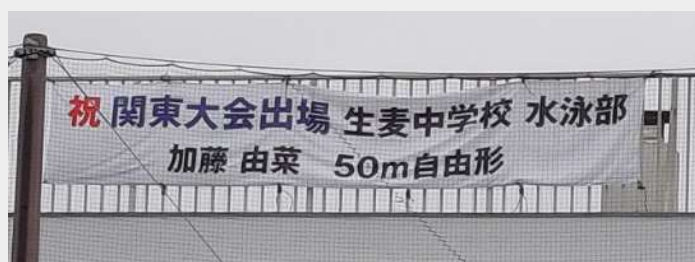
- 県総体  
団体戦第3位、  
個人戦2ペア出場

- 関東大会出場



### 水泳

- 県総体出場  
3年:小野優太・近藤貴仁・折原心絆・志村想子  
2年:杉本一輝・内田遥佳・亀原聖奈・加藤由菜  
1年:原まりあ  
・加藤由菜 市総体第2位(100m自由形)、県総体第4位(100m自由形)、関東大会出場  
・内田遥佳 市総体第4位(200m自由形)、県総体第8位(200m自由形)  
・原まりあ 市総体第4位(100mバタフライ)
- 区大会  
女子総合優勝 男女総合2位



### 剣道

- 市総体男子団体予選出場  
(森・須藤・杉浦・高橋・平井)
- 市総体女子団体戦 1回戦 vs 金沢 1-4(負け)  
(瀧本・石本・持丸・田口・木村)

### 卓球

- 市総体団体戦予選(ブロック敗退)

### バスケットボール男子

- 市総体東部ブロック大会  
2回戦 vs 横浜吉田 39-107(負け)

### バスケットボール女子

- 市総体東部ブロック大会  
1回戦 vs 捜真 47-32(勝ち)  
2回戦 vs 青山学院横浜英和 31-40(負け)

### バレーボール女子

- 市総体  
1回戦 vs 寺尾 2-1(勝ち)  
2回戦 vs 南 2-0(勝ち)  
3回戦 vs あかね台 0-2(負け)

### 吹奏楽

- 横浜吹奏楽コンクール 金賞

### 演劇

- 横浜市中学校演劇発表会 優良賞

### 部活動の取り組み

本校では、運動系・文化系部活動合わせて17部活動(男女別で19部活動)が日々の活動を通じて、豊かな人間性とたくましく生き抜く力を育むよう取り組んでいます。

本年度は、女子ソフトテニスで横浜市総合体育大会団体戦「優勝」という輝かしい結果を出すことができました。横浜市立中学校145校に加え、私学も参加する競技大会での団体優勝は、「素晴らしい」という言葉が当てはまります。

水泳競技においては自己の記録をいかに伸ばしていくかという課題に常に向き合わなければなりません。水泳は水中という環境特性の中で、呼吸に制約を受けながら行う全身運動、一時間当たりの消費カロリーが最も高い運動であるとともに柔軟でしなやかな動きを必要とします。

そのよう中、2年加藤さんは関東大会で50m自由形27秒67という記録を刻みました。

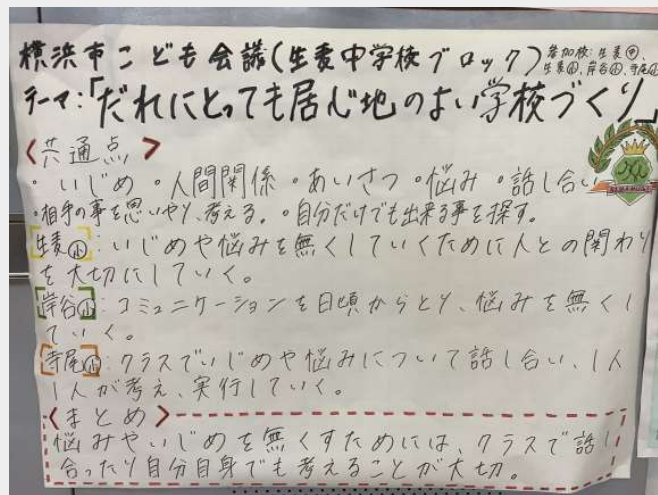
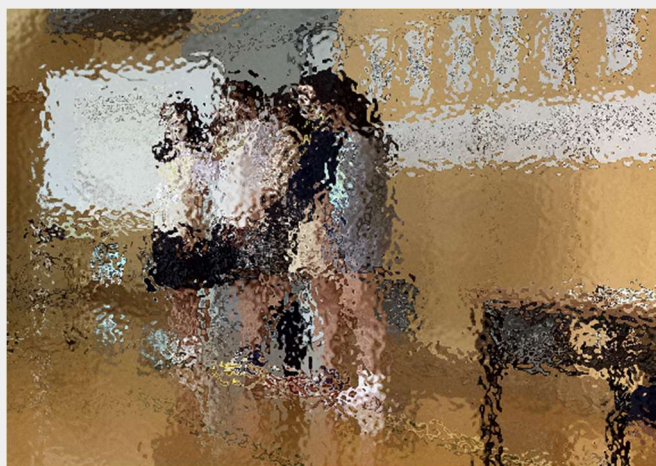
ご支援とご理解・ご協力を頂いた保護者の皆さまに感謝いたします。また、共に活動したチームメイトの皆さんにお礼を申し上げます。

## 横浜こども会議 鶴見区交流会

8月30日 横浜こども会議 鶴見区交流会が鶴見小学校で開催されました。

生麦小学校、岸谷小学校、寺尾小学校の各小学校代表者と本校生徒会3年会長佐伯さんと2年副会長加瀬さんが参加しました。

交流会では、鶴見区内9中学校ブロックごとの発表がありました。本校ブロックは、「だれにとっても居心地の良い学校づくり」について、「悩みやいじめをなくすためには、クラスで話し合ったり自分自身でも考えたりすることが大切である」ことを伝えました。



## 横浜の高校生から 皆さんへ

一部抜粋

過ごしやすい学校と言っても、誰しも自分の居心地が良くても他の人がそうであるとは限りません。生徒の数だけ、「過ごしやすい」の基準は違ってくるでしょう。その中で、多くの生徒に共通で居心地よく感じてもらう方法もあります。

それは「相手を知るだけでなく、理解すること」を学校全体でより深めていくことで、だれも取り残されない、だれでも居心地の良い環境につながっていくのではないのでしょうか。

生徒一人ひとりが「一歩踏み出す」意識をもって初めて、「だれにとっても居心地の良い学校」は作られ始めるのではないのでしょうか。

知ること・理解することは挨拶から「一歩踏み出す」ことで、結果的に生徒同士の壁を無くすことができます。ぜひ参考にしてみてください。

## 総合防災訓練

8月29日総合防災訓練を実施しました。大規模地震を想定し、グラウンドへの一次避難、再度教室に戻り、引き取り対応の確認を行いました。

日本では関東大震災(大正12年)のあった9月1日を、1960年に防災の日と定め、国を挙げての防災訓練が行われています。

また、南関東直下地震(首都直下地震)の発生が想定される南関東では、九都県市合同防災訓練の一環として各都県市で総合防災訓練も行われています。(埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 横浜市 川崎市 千葉市 さいたま市 相模原市)

本校での防災訓練は、災害が起こっても慌てず速やかに自分や人の命を守るために行動し、災害で起こる被害を最小限に抑えることを目的にしています。



訓練放送後、教室での揺れから身を守る安全確保行動、まず低く、頭を守り、動かないも実践することができ、避難指示放送後、722名の生徒は5分以内に避難経路を通り、グラウンドに集合することができました。

ご家庭におきましても、地震の揺れがおさまった後、「どのような手順で避難場所まで行くのか」をご確認ください。

プロ・バスケットボールクラブ「YOKOHAMA EXCELLENCE」の訪問がありました

# タウンニュース

2022年  
(令和4年)

9月1日(木)号  
No.730

鶴見区版

■発行：株式会社タウンニュース社 <https://www.townnews.co.jp>

■編集室：〒231-0033 横浜市中区長者町2-5-14 セントラルビル2F TEL：045-227-5050 (代) FAX：045-227-5051

■発行責任者：宇山知成

■編集長：土谷晃



増子選手からシュート方法を学ぶ生徒

部バスケット中麦生

## プロ選手の技術に感嘆

エクスレンス選手が訪問

横浜市中区を拠点に活動するプロバスケットボールチーム、横浜エクセレンスの選手らが8月23日に市立生麦中学校を訪れ、バスケットボール部の生徒に特別指導を行った。

これは、昨年から横浜に拠点を移した同チームが地域貢献の一環として行っているもの。鶴見区内の学校では初めて。当日は、増子匠選手と澤地サミュエルジュニア選手が、コーチ陣と同校

を訪れた。

3年生が引退し、現在1年生、2年生の男子、女子合わせて49人が所属する同部。選手たちが登場すると大きな拍手で迎え、ボールの扱い方やドリブルのコツなど、コーチ陣の説明に熱心に耳を傾けていた。

また、シュート練習では、相手のブロックを防ぎながらシュートする選手たちの見本を見て、アドバイスを求める姿も。生徒からは「プロの技術を間近で見られて感動した。真似して学んでいきたい」といった声が聞かれた。男子部顧問の浅田大教諭は「大変貴重な機会を頂いた。プロ選手を身近に感じることで、今まで以上にバスケットを好きになってもらえたら」と話していた。